

12歳以上18歳以下でHPVワクチンを接種される方へ

「日本におけるHPVワクチンの細胞診異常予防効果に関する疫学研究」 ご協力をお願い

子宮頸がんは子宮頸部に発生する悪性腫瘍です。原因としてHPVというウイルスが挙げられますが、HPVウイルスは特別な人にだけ感染するのではなく、多くの女性が一生のうちに一度は感染するごくりふれたウイルスです。子宮頸がんを引き起こすHPVの種類は数多くあり、現在のワクチンで予防効果が期待できるのはHPV-16とHPV-18に対してです。最近の日本の若年女性におけるHPV感染率は高く、特に20歳代の女性の子宮頸がん組織の多くでHPV-16またはHPV-18が見つかったとの報告もあります。そこで私たちは、日本の若年女性におけるHPVワクチンの効果を検証し、子宮頸がんの予防に役立てたいと考えております。

この研究は大阪産婦人医会および大阪小児科医会に所属する多くの医療機関が共同で行っており、ワクチン接種を受けられる方に、研究への参加のご協力をお願いしております。

この研究にご登録いただいた後にご協力いただきたいこと

1. ワクチン接種後の子宮頸がん検診の結果を研究に使わせて下さい

子宮頸がん予防ワクチンはHPV-16とHPV-18の発がん性HPVの感染を予防することはできますが、すべての型の発がん性HPVの感染を防ぐものではありません。また接種前に発症している子宮頸がんも治すことはできません。**ワクチンを接種した後も定期的な子宮頸がん検診の受診が重要です。**

12歳以上18歳以下でHPVワクチンを接種された方は、20歳時・25歳時の子宮頸がん検診結果を使わせて下さい。検診時期に検診のお知らせを大阪産婦人科医会より郵送させていただきます。

2. 子宮頸がん検診時にHPV検査をさせて下さい

子宮頸がんの原因として重要な発がん性HPVの感染がないか検査し、結果をお知らせします（無料）。
発がん性HPVが陽性と判明した場合は、さらに精密なHPVのタイプを調べる検査を行います（無料）。

なお、ご登録の状況等にて研究期間・内容等が変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

協力の自由について

研究へのご協力は、あなたの自由です。ご協力いただけない場合でも、あなたの不利益になることは一切ありません。ご協力の取り止めをご希望の場合は、大阪産婦人科医会（下記、ご参照ください）までご連絡下さい。研究期間は2021年12月末までの予定です。ただし、登録状況や検査結果の中間解析などによって研究期間の延長あるいは研究の中止などがありえる旨、ご了承ください。

個人情報の保護について

検査結果および個人情報（氏名・生年月日・住所等）は、研究データセンターでとりまとめ、個人が特定できないようにして厳重に管理します。研究結果を公表する場合も、個人名が出ることはありません。
※ 検診のお知らせは大阪産婦人科医会より郵送致します。個人情報は研究目的以外には使用致しません。

研究終了後のデータの取り扱いについて

あなたのデータは原則として本研究のために用いさせていただきますが、現在HPVワクチンには2種類あり、今回接種されたものとは異なる種類のワクチンに関する同様の研究にも、あなたの同意が得られれば、データを使用させていただきます（データの2次利用）。

研究組織

研究実施機関：大阪産婦人科医会

研究協力機関：大阪小児科医会

研究事務局・事務局責任者：大阪大学医学部附属病院産科婦人科

准教授 榎本 隆之

所在地：〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-15

連絡先：06-6879-3351

研究データセンター：サイトサポート・インスティテュート株式会社

工藤 大二郎

本研究の結果があなたの健康に直接関わる可能性はありませんが、

将来の子宮頸がんの診断や予防・治療などに役立つようご協力をお願い致します。

お問い合わせ先

大阪産婦人科医会

所在地：〒541-0048

大阪市中央区瓦町4-4-3

連絡先：06-6227-5383

